

国語（^{教育学部}国語教育専攻 90分200点／^{保健医療学部} 60分100点／^{上記以外の全学部・学科・専攻} 75分150点）

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- (2) 解答にはHBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルはHBまたはBの芯であれば使用可）を使用しなさい。
- (3) 受験する学部（専攻）によって解答すべき問題を指定しているので注意すること。

受験する学部（専攻）	解答すべき問題	解答方式	解答時間
教育学部国語教育専攻	一・二・三・四※	マーク ※四は記述	九〇分
保健医療学部	一・二	マーク	六〇分
右記以外の全学部・学科・専攻	一・二・三	マーク	七五分

- (4) 一・二・三の解答は、**マーク式解答用紙**の解答欄にマークしなさい。氏名・受験番号・解答科目を記入し、受験番号・解答科目をマークしてから解答を始めます。例えば、**10**と表示のある問いで「③」と解答する場合は、下の（例）のようにマークしなさい。

- (5) **四**の解答は、**記述式解答用紙**の解答欄に記述しなさい。改めて氏名・受験番号を記入してから解答を始めます。例えば、**記述式 2**と表示のある問いでは**2**の枠内に記述しなさい（枠外にはみ出したものは無効）。字数制限のある場合は、句読点・カッコも一マスを使うこと。

- (6) (3)の表に指定する「**解答すべき問題**」以外の問題に解答しても、その解答は**採点の対象外**とします。

- (7) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。

(例)

解答番号	解	答	欄
10	①	②	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

※ 予告用の見本につき、実際には、体裁や細部等に若干の変更があり得ることをご了承ください。

※ 問題に使用した文章の表記は、一部改めた場合がある。

国語（全学部の共通問題）

* ☐一・☐二・☐三の問題には、マーク式解答用紙を使って解答しなさい。

* ただし保健医療学部の受験者は、☐二には解答不要です。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

社会諸科学に比べると、近代科学の中枢をなす自然科学の方は、現在でもまだ依然として有効性が大きいから、〈厳密科学〉（精密科学）としてのその有効な部分だけ見て、現実や人間経験とのずれの方を見ない人、見たがらない人が、まだ圧倒的に多い。しかし、近代科学の自然観が、自然をもっぱら人間のために役立たせる技術的開発の対象としてきたこと、したがって生態系つまりは地球環境の破壊をもたらすに至ったことはいまや明白であろう。また、高度に自然科学化し、技術化した近代医学が、たとえば集中治療室などに象徴されるように、医療の現場において、人間らしい患者の扱いからいよいよ遠ざかることになり、関係者だけでなく社会全体に深刻な反省を迫ってきていることも周知のとおりである。

では、一般的にいつて、^A近代科学が無視し、軽視し、果ては見えなくしてしまった〈現実〉あるいはリアリティとは、いったいなんだろうか。これもいまこの〈序文〉では、大ざっぱに言っておくしかないが、その一つは〈生命現象〉そのものであり、もう一つは対象との〈関係の相互性〉（あるいは相手との交流）である。この二つは互いに結びついているが、ここでは一応分けて扱っておこう。あるいはひとは、生命現象だったら近代科学は十分扱ってきたではないか、と言うかもしれない。たとえば、分子生物学やそれにもとづいた（注¹）ヒト・ゲノム（人間の遺伝子）研究のような輝かしい成果があるのだから、と。けれども、操作主義のキョク^aととしての分子生物学が捉えているのは、原子論的に分子のレベルに還元された生命体の要素とその機械論的な組み合わせであって、生命現象そのものでも、生命現象の固有の、あるいは少なくとも特徴的な働きでもない。したがってそこでは、生命現象のもたらす意味の発生、自律的な振舞い、自己創造などが真っ向から扱われることがないのである。

なお、〈生命現象〉の重視に対して、「〈生命〉の偶像崇拜」と名づけられた批判が、（注²）I・イリイチによってなされていることを私も知らないわけではない。

〈関係の相互性〉についても、現代物理学の量子論において、すでに、観測データは観測のための光や観測者の存在によって変化を被ることが着目されていること、（注³）ウィーナーに始まる（注⁴）サイバネティクス理論においてフィードバックというかたちで出力および入力エネルギーの相互性が問題にされていることなどから、その問題が自然科学のうちに取り込まれてきている、と言う人があるかもしれない。このような傾向は、対象を拡張すると同時に方法そのものを問いなおす自然科学の展開としては注目に値するけれども、その方向と延長で扱われるのは、人間経験のなかでは限られた範囲での、関係の相互性にすぎない。

それにしても、近代科学がこれほどまでに人々に信頼され、説得力をもったのは、なにゆえであろうか。古今の数ある理論や学問のなかで特別の位置を **b** シめたのは、なにゆえであろうか。すなわちそれは、一口で言えば、近代科学が十七世紀の〈科学革命〉以後、〈普遍性〉と〈論理性〉と〈客観性〉という、自分の説を論証して他人を説得するのにきわめて好都合な三つの性質をあわせて手に入れ、**c** ホジしてきたからにほかならない。これらの三つの性質は、それまでの多くの理論にも個別的には見られたものの、互いに相容れず、両立できないと見なされていた。ところが、近代科学の誕生においてはじめて、それらは、結びつけられ、統一されることによって異例の力を発揮するようになったのである。

まず〈普遍性〉とは、理論の適用範囲がこの上なく広いことである。例外なしにいつ、どこにでも妥当するということである。だから、そのような性格をもった理論に対しては、例外を持ち出して反論することはできない。原理的に例外はありえないのだから。次に〈論理性〉とは、主張するところがきわめて明快に **d** シュビイッカンしていることである。理論のコウ **e** チクに關しても用語の上でも、多義的な曖昧さを少しも含んでいないということである。したがって、そのような性格をもった理論に対しては、最初に論者によって選ばれた筋道によってしか、問題が立てられず、議論できないことになる。最後に〈客観性〉であるが、これは、或る **あ** ことが誰でも認めざるをえない明白な事実としてそこに存在しているということである。個々人の感情や思いから独立して存在しているということである。だから、そのような性格をもった理論にとっては、物事の存在は主観によつては少しも左右されないということになる。

しかしながら、〈現実〉とは、このように近代科学によつて捉えられたものだけに限られるのだろうか。というより、このような原理をそなえた理論によつて具体的な現実 **B** は捉えられているだろうか。否であろう。むしろ、近代科学によつて捉えられた現実とは、基本的には機械論的、力学的に選り取られ、整えられたものにすぎないのではなからうか。もしそうだとすれば、近代科学の〈普遍性〉と〈論理性〉と〈客観性〉という三つの原理はそれぞれ、なにを軽視し、無視しているのだろうか。それらは、なにを排除することによって成立しえたのだろうか。そこでこんどは、そのことを考えてみる必要がある。

まず、近代科学の普遍性を代表するものとして **(注5)** デカルト的、ニュートンのな物理学の〈無限空間〉、〈絶対空間〉があるけれども、それらが前面に登場することによって覆い隠されるようになったのは、有機的なまとまりをもった宇宙、他にない固有の場所としてのコスモスである。このコスモスとは、大宇宙（マクロコスモス）だけにきまらない。それは、生命体が個体的、集合的にそのなかに生きるさまざまな固有の場所を指している。そのことに着目すれば、近代科学の〈普遍性〉の原理が排除したのは、ほかでもない、事物のコスモス的な在り様を示す〈コスモロジー〉という原理だということになる。

次に、近代科学の論理性、いっそう正確には論理的な一義性は、一つの原因に対する一つの結果という単線的な因果関係を説くのにきわめて適している。しかし、たとえ自然現象であっても、そのような単線的な因果関係が成立するのは限られた場合だけである。実際には〈現実〉は、もつといろいろな側面あるいは多義性をそなえている。無生物についても同じようにそのことが言えるけれども、環境との相互関係はるかに複雑な生命体や人間的事象になると、いっそうその性格がつよまる。したがって、〈論理性〉の原理が無視し排除したのは、つまるところ、事物の多義性としての〈シンボリズム〉（象徴表現）の原理だということになる。ここにシンボルが出てくるのはなぜかといえ、論理的記号が記号として一義的であるのに対して、シンボル（象徴）の特徴は多義的なことにあるからである。

最後に、近代科学の客観性は、基本的に、主観と客観、主体と対象の分離・断絶を前提している。だから、そこで捉えられる事物はいきおい独立性・自律性のつよいものになるが、そのような事物の捉え方のもとでは、客観や対象とは、主観や主体の働きかけを受け被る、単なる受け身のもの、受動的なものでしかない。つまりそこでは、事物の側からのわれわれに対する働きかけ、われわれの側からいえば受動になるような作用は一切無視され、無いものとされている。とはいえ、事物とわれわれの具体的な関係を成り立たせているのは、働きかけを受けつつおこなう働きかけ、つまり受動的な能動とも言えるべきものではなからうか。そのような在り様を人間の営みとして具体的に示せば、自分の身体を他人の視線にさらしておこなう行動、つまり〈パフォーマンス〉ということになるだろう。

以上のようなわけで、近代科学の三つの原理、つまり〈普遍性〉と〈論理性〉と〈客観性〉が無視し排除した〈現実〉の側面を捉えなおす重要な原理として、ここに得られるのは、〈コスモロジー〉と〈シンボリズム〉と〈パフォーマンス〉の三つである。わかりやすく言いなおせば、〈固有世界〉〈事物の多義性〉^C〈身体性をそなえた行為〉の三つである。そして、これらをあわせて体现しているのが、私が〈臨床の知〉としてモデル化したもののなのである。すなわち、このようにして得られるのは、個々の場所や時間のなかで、対象の多義性を十分考慮に入れながら、それとの交流のなかで事象を捉える方法である。この場合、誰でも容易に気づくように、〈経験〉ということが大きな役割を演じることになる。けれども、あらためて経験を問題にすることが必要であり、そのためには、突っ込んで、その仕組みと働きが問われねばならない。

〈臨床の知〉と私が名づけ、モデル化したこの方法は、実はすでに、しばらくまえから人々の関心を集めるようになった新しい学問領域である精神医学・文化人類学・比較行動学などにおいて、それと名づけられずに使われてきたものである。しかしその場合、必ずしも、自覚的に近代科学に対するものとして、位置づけられてはいなかった。それを私は、方法として意識的に捉えなおし、その意義

を問い、今日での緊急な必要性を明らかにしようと思うのである。さまざまな領域で、とくに多くのいろいろな現場にあって、人々が感じているはずの不満に応えて、近代科学の方法に対する別のオルターナティブ（選択肢）を提出したいと思うのである。

したがって、〈臨床の知〉というここでのネーミングは、ただちに医学的臨床のための知や医学の分野の知を意味するものではない。そうではなくて、**D** 今日、領域を超えて必要とされてきている知の一般的な在り様を指すものである。だから、先の三つの要件を満たしている、精神医学を除いた文化人類学と比較行動学という二つの領域と関係づけて、〈フィールドワークの知〉と名づけてもいいのである。

（中村雄二郎『臨床の知とは何か』による）

（注） 1 ヒト・ゲノム——人間を構成する遺伝の情報。

2 I・イリイチ——オーストリアの哲学者・社会評論家（一九二六～二〇〇二年）。

3 ウイナー——アメリカの数学者（一八九四～一九六四年）。

4 サイバネティクス理論——生物と機械の制御と通信を統一的に認識し、研究する理論。

5 デカルト——フランスの数学者・思想家（一五九六～一六五〇年）。

問 1 二重線部 a の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。 解答番号は 1 5。

「キョク a チ」 1

① チスイための工事をする。

② 意見のイチチをみた。

③ チジョウに降り立つ。

④ チシキを身につける。

⑤ 適切なシヨチをする。

「b シめ」 2

① 山小屋をセンキョする。

② 条約をテイケツする。

③ オリンピックがヘイカイする。

④ 日本の夏はシツドが高い。

⑤ センシュ防衛を徹底する。

「c
ホジ」 3

- ① 欠員をホジユウする。
- ② サンボに出かける。
- ③ 動物をホカクする。
- ④ 土地をタンボにする。
- ⑤ 道をホソウする。

「d
シユビイツカン」 4

- ① シユエイが巡回をする。
- ② タシユ多様な商品をそろえる。
- ③ ヤシユに富む料理を作る。
- ④ 王座ダツシユを目指す。
- ⑤ シユセキで卒業する。

「e
コウチク」 5

- ① チクサン業を営む。
- ② ガンチクのある話をする。
- ③ 自宅をシンチクする。
- ④ 状況をチクイチ報告する。
- ⑤ バクチクで鳥を追いかう。

問2 「A 近代科学が無視し、軽視し、果ては見えなくしてしまった〈現実〉あるいはリアリティとは、いったいなんであろうか」とあるが、筆者は「〈現実〉あるいはリアリティ」を「見えなく」した結果、近代科学がもたらした状況をどのように捉えているか。

その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。 解答番号は 6。

- ① 自然科学を中核として発展した近代科学は、これまで自然現象の原理の多くを明らかにしてきたが、いまだに人類はその恩恵を受けてはいない。
- ② 主として生命現象を扱ってきた近代科学は、中核となる医学のみを自然科学化させ、人の延命治療を高度化させることに成功している。

- ③ 人間の生活の質の向上に資するはずの近代科学は、地球環境を破壊し不幸な終末期を過ごさせるなど、多くの場面で不幸な事態をもたらしている。
- ④ 深刻な現実社会に直面している近代科学は、自然や人との関係性を重視する視点を排除することで、技術的開発を革新しようとしている。
- ⑤ 自然科学の進化とともに発展した近代科学は、現実世界とは距離を置くことでその有効性が発揮され、社会全体の高度化に寄与している。

問 3

「**B** 近代科学によって捉えられた現実」とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **7**。

- ① 多義的で曖昧な事物のなかから、論証のために必要なものを機械論的、力学的に選び取ることで、誰からも共感と理解が得られているもの。
- ② 多様な要素をもつ現実世界のなかから、近代科学のもつ普遍性、論理性、客観性によって論じられる部分のみを抜き出して整理されたもの。
- ③ 個々人の想いや感情を優先させたため、普遍性、論理性、客観性が考慮されておらず、一般社会では受け入れがたいと認められるもの。
- ④ 具体的な現実を視野に入れることで、普遍性、論理性、客観性の度合いが高まり、すべての人が近代科学の成果として認めざるを得ないもの。
- ⑤ 個人の感情や主観を尊重したうえで、機械論的、力学的に選ばれた事実であるため、客観的な根拠に基づく論理的な説明ができないもの。

問 4

「C 身体性をそなえた行為」とあるが、それはどのような行為か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **8**。

- ① ダンスや音楽の演奏などの芸術活動を、作り手本位ではなく受け手の反応を事前に予想したうえで表現しようとする行為。
- ② 表現者自身の創作意図が尊重され、鑑賞者は常に受動的であることが前提とされるうえで身体表現として行われる行為。
- ③ 他者に強く影響をもたらすことを主眼として、身体全体を大きく使う表現技法により人々の関心を集めようとする行為。
- ④ 行動する側が一方的に働きかけるのではなく、他者の視線や反応を感じる中で、調和的な働きかけをしようとする行為。
- ⑤ 評価の基準が多様化する中で、他者との違いを明らかにすることで、自らの独自性を際立たせようとする行為。

問 5

「D 今日、領域を超えて必要とされてきている知の一般的な在り様」とあるが、その「在り様」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **9**。

- ① これまで近代科学が関心を寄せていなかった、それぞれの固有性や多義性を認め、意識的に目の前の現実や対象との交流を図る中で事物をとらえようとする事。
- ② 近代科学の世界では不可能とされていたが、精神医学の世界でのみ追及されてきた、普遍性と論理性と客観性を結び付けて現実を分析しようとする事。
- ③ 従来の関係者だけによる近代科学とは異なり、現実社会に直接的にかかわり、さまざまな領域の人々に判断をゆだねる中で新しい考え方を示そうとする事。
- ④ 近代科学の世界では常識とされており、現実を無視して固有性や多様性を排除することで、人々が関心を寄せている客観性を追求しようとする事。

⑤ 今後における近代科学の発展のために、フィールドワークを前提とする学問を進め、特に医療分野において人々への貢献を進めようとする事。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

高層ビルの狭間^{はざま}に百年余りも続いたお豆腐屋さんがあったり、東洋的なものと西洋的なものが入り交じっていたり、“奇跡”の経済復興を果たしたり……、アメリカ人から見ると日本人は「謎」の多い国民に見えるらしい。日本人も、自分たちの独自性を盛んに宣伝することによって、このイメージづくりに少なからず加担してきた。

こうした中、アメリカで近年増えてきた「日本紹介」の写真を見てみると、不思議なことに気づく。それは、写真でありながら、どうも日本ではないような違和感を覚えるものが多い。これは、写真を撮るアメリカ人が、ことさら、彼らから見て不思議に映る被写体にレンズを向けているからではないかと思われる。そのため、教室の中で一斉に児童がおじぎをし、黒髪の頭のとっぺんがズバリとレンズに向かって並んだような写真が、雑誌に掲載されるわけである。それを手にするアメリカ人は、日本社会の断面を眺めているかも思っているかもしれないが、それらの写真は日本人のことよりも、むしろアメリカ人がいかに日本人を見ているかということ物語っているように思う。

アメリカ人から見た日本の「謎」の一つに子供の扱い方がある。日本に滞在し、日本人が子供に接するときの態度の寛容さに驚くアメリカ人が多い。私がアメリカで学校視察中に会ったニュージャージー州郊外の小学校教師、リサもその一人である。彼女は一年間日本に滞在し、息子を東京郊外の公立小学校に通わせていた。リサは、日本の児童がうるさく、子供たちがふざけても教師は平気な顔をしていたので驚いたという。

B リサは、このようなことが日本で起こりうることに不思議で仕方がない。なにしろ、日本の学校は、アメリカでは“厳しい”ことで知られている。経済の衰退や生徒の学力低下がアメリカで問題になった八〇年代、日本を意識した報告書が、あちこちで発表された。勤勉で規律正しい生徒を育てる日本の教育制度は、急激な日本の経済成長を支えた有力な要因と見なされ、その成功の謎を解こうと、熱い視線が日本の学校教育に注がれていた。

「この通り」とリサが持ち出したのが、^(注1)『スミソニアン』誌の一九八七年三月号である。表紙を見ると、布帽子をかぶった丸顔の日本園児が四人写っている。そして、表紙の隅には該記事の内容が書いてある。

「日本の幼稚園児―ママの助けて “試験地獄” の将来に臨む」(四四ページ)

アメリカでは、このような日本紹介に出会うことが多い。新聞、雑誌、テレビ、そして、研究者の書いたものまでが、しばしば、日本人に対してアメリカ人が抱く ^pステレオ・タイプの観念に彩られている。

たとえば、日本人は勤勉で優秀だが創造性が乏しいとか、「個人主義的」な自分たちアメリカ人にくらべて、日本人は集団行動には長けているが自分を押し殺して組織に従属している、というような固定観念がある。『スミソニアン』誌の記事も、日本の子供たちは家族ぐるみの努力に支えられながら、遊ぶ間もなく幼少から勉強するという日本人のイメージに通じるものがある。

こうしたステレオ・タイプの観念に影響されたアメリカの新聞やテレビなどの報道は、互いに既成の日本人のステレオ・タイプのイメージを確認し合うのみで、その結果、嘆かわしいことに、それらが提示する日本人像が日本人の現実の姿だと錯覚されている感がある。しかし、現実にはステレオ・タイプが示唆するよりも遥かに複雑であり、^qえてしてまったく違うものである。

そこで、私自身は、アメリカ人が抱いている日本人のステレオ・タイプのイメージに迎合しないように努めている。そして、騒ぐ児童たちを放任しておく教師の態度が、「統制された日本人」というイメージにそぐわないとして戸惑っているリサに、日本の教師が子供に寛容だという彼女の体験は、それほど特殊ではないという説明を始めた。

近年、アメリカの研究者の中には、日本の就学前の幼児教育や小学校教育に関して、思わぬ「発見」をした人々がいる。つまり、非常に統制された国だという日本社会のステレオ・タイプのイメージにそぐわず、彼らの観察した日本の教室は意外に騒がしく、しかも、日本の教師がそれをあまり気にしていない様子である、という発見である。

(注2) C・ルイスや(注3) J・トビンなどの研究者の学校観察は、自由の国であるはずのアメリカよりも、個を押しつぶすほど規律の厳しいと思われる日本のほうが、小さい子供に関しては寛容な扱いをしているかもしれないことを示唆している。ここで問題となっているのは、日米の中産階級の公立であり、アメリカでは概して白人が主体の学校である。人種が階級などと密接に絡んであらゆる社会問題に顔を出すアメリカにおいては、特に、このような限定をしないとひどく的外れた意見となりやすい。それだけでなくも、「日本」「アメリカ」などという広い単位で一般化した場合は、必ずしも該当しない例をいくつも思い出すものである。

リサは、仕事中毒の評判が高い日本男児を思い描いている。大人になり、あのような自己統制を発揮する国民の子供時代が、アメリカ人以上に厳しい規律と禁欲的なしつけに彩られていないことに矛盾を感じているのである。リサによれば、「子供を自由奔放に振る舞わせよ」というのは、Xに過ぎない。実際に教師が子供たちに対する監督の目を緩めれば、教室は混乱状態になり、子供は悪ふざけが高じて互いに傷つけあうことさえあるという。「日本の教師がわれわれより寛容になれる理由でもあるのですか？ 寛容であ

りながら、どのように教室を統制できるのですか？」。リサの疑問は尽きないのである。

C 日本の教師がアメリカにくらべ、寛容になれる理由でもあるのだろうか。リサの疑問を解く一つの手がかりが、『ニューイングランド・プライマー』という名の小さな子供用教科書の中にある。植民地時代のアメリカで広く使われたこの教科書の文面からは、当時のキリスト教徒たちの信条が生き生きと伝わってくる。それは、教育が宗教や政治と密接に絡み合っている時代を反映している。家庭や学校で、ピューリタンたちは宗教を生活の原理として子供たちに教えたのであった。

『プライマー』はアルファベットを初め、文章や韻文詩などを記載しているが、最初の韻文詩は次のようなものであった。

アダムの墮落により我々は皆、罪を犯した。(In Adam's fall, we sinned all.)

枝を誘惑的に広げる一本の木と、禁断の果実に手を伸ばす罪深い人間……。この韻文詩は、ピューリタンたちにとって忘れがたい人類の過ち、原罪(the original sin)を表していた。

「人間は生まれながらにして罪深い存在である」。当時の幼いアメリカ人たちは、自分たちの中に潜む罪深い本性について早くから論されたのであった。子供は、墮落することなく、勤勉、儉約、忍耐などの徳を身につけなければならないと教えられた。一方、親は、子供の罪深い本性と果敢な闘いを繰り返し、悪行を罰し、矯正し、厳しくしつけ(discipline)なくてはならないと考えられたのであった。

こうした当時のピューリタン・カルヴァン主義的なアメリカ人の子供観は、一種の性悪説と呼べるものであるが、海を隔てた日本では、このような厳格かつ禁欲的な態度とは縁の薄い伝統の中で人々の子供観は形成されてきた。「罪も汚れもない子供」「七つまでは神のうち」というような日本人の考え方は、カルヴァン主義的な子供観とは対置しうる、性善説の色彩が強い。

日本の伝統的な子供観によれば、子供の本性は元来「善」であり、「悪」は子供の内にはなく、外の環境などに求められた。民俗学的資料からも、子供は、外の悪に汚れるまではそれほど悪いことをしないものであるという考え方が日本人の間では強かったことがうかがえる。その結果、自然な成長が促され、寛容なしつけが好まれたことが繰り返し指摘されてきた。

ある社会の伝統的な価値観は、背後にある社会構造の変化や新しい価値観の導入によってただちに消え去るわけではない。変容し、衰退し、新しい価値観と接合しながらも、かなり後までその痕跡を残す場合もある。

実は、日本の学校に対するリサの感想は、昔から日本を訪れた欧米の宣教師などが日本の子育てについて述べてきたものである。大

人になると厳しい自己統制を発揮する日本人であるから、幼い頃から親が厳しくしつけたに違いない、と考える欧米人は多いわけである。ところが、実際に日本の親子を観察してみると、厳しいしつけが行われているどころか、欧米人の経験からは「甘やかし」に見えるような子育てが行われている。そこに彼らは新鮮な驚きを感じるわけである。

一九四〇年代半ばに、『菊と刀』の中で(注4) R・ベネディクトは、アメリカでは乳幼児は一定の時間に授乳され、言うことを聞かなければ厳しく罰せられるが、日本の赤ん坊は欲しがるときに授乳され、自由奔放に振る舞っていると述べている。ベネディクトが対象とした人々の特殊性などについてはさまざまに批判されてきたのでここでは触れないが、ベネディクトのこの指摘は、当時の日本人やアメリカ人に関しては、当てはまる部分も少なくなかったと思われる。

さて、ベネディクトが日本人の温和なしつけに感心していた頃からすると、アメリカ人のしつけも寛容化してきた。ベネディクトの考察が行われた頃に出版され、戦後アメリカの一時代における育児書のバイブル的存在となった『スポック博士の育児書』もすでに、アメリカ中の母親に、「あなたの赤ん坊を楽しみましょう」と呼びかけていた。「赤ん坊を抱いたり遊んだりして甘やかしてはいけない」という禁欲的なピューリタン・カルヴァン主義的な子育てとは一線を画した主張であった。アメリカ連邦政府労働省児童局の『インファント・アンド・チャイルドケア』(乳幼児の育児)の分析をした(注5) M・ウォルフエンスタインも、ピューリタンのなしつけ観が後退し、子供を楽しみ、欲求を受け入れる姿勢がアメリカでも強くなったことを示唆した。また、(注6) U・ブロンフエンブルナーは、しつけ観の寛容化に伴い、中産階級を中心としてアメリカ人の実際の子育ても **Y** になっていると論じた。

しかし、アメリカにおいて、ピューリタンに顕著に見られたような性悪説的な発想の系譜が死に絶え、寛容主義が社会的コンセンサスを得たと考えるのは **r** 早計かもしれない。啓蒙主義や児童中心的思想の影響、心理学の発達、社会変動などを背景に、アメリカ人の子供観は大きく変わってきた。だが、昔の宣教師同様、アメリカの研究者が今日でも日本人教師の寛容さに感心したり、日本人の家庭教育の緩やかさに驚く背景には、 **D** 変貌しながらも、痕跡を残している両国の伝統が関係している可能性がある。

(恒吉僚子『人間形成の日米比較』による)

(注) 1 『スミソニアン』誌——アメリカの月刊科学総合誌。スミソニアン博物館を運営する協会が発行している。

2 C・ルイス——アメリカの教育学者(一九五〇年〜)。

3 J・トビン——アメリカの人類学者・幼児教育学者(一九五〇年〜)。

- 4 R・ベネディクトーアメリカの文化人類学者（一八八七～一九四八年）。
- 5 M・ウォルフエンスタイン——アメリカの心理学者・作家（一九一一～一九七六年）。
- 6 U・ブロンフエンブルンナー——アメリカの発達心理学者（一九一七～二〇〇五年）。

問
1

波線部 $\mathbf{p}$ 、 $\mathbf{r}$ の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は

「**p**ステレオ・タイプ」

10

- ① 誰からも好まれる性格
- ② 拡散させようとする姿勢
- ③ 他者に対する寛容な態度
- ④ 多くの人がもつ固定的な考え
- ⑤ 誰もが共通に有している性向

「**q**えてして」

11

- ① ややもすると
② なんとも言いようがなくて
③ ひよつとすると
④ いずれにしても
⑤ たえようがなくて

「**r** 早計」

12

- ① 明白な事実により論証すること
- ② 実験や観察により証明すること
- ③ 種々の検討をふまえて推測すること
- ④ そうではないかと見通すこと
- ⑤ 十分に考えないで判断すること

問2

☒ X、☒ Yに入る言葉として最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 。

☒ X ① 砂上の楼閣 ② 机上の空論 ③ 宝の持ち腐れ ④ 本末転倒 ⑤ 絵に描いた餅

☐ Y ① 禁欲的 ② 受容的 ③ 対比的 ④ 啓蒙的 ⑤ 保守的

問3

「まぎれもなく日本の写真でありながら、どうも日本ではないような違和感を覚える」のはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

① アメリカ人の写真は、先入観に基づく好奇心を満足させる光景ばかりのものであり、日本文化の特徴や日本人の性質がよく伝わるようなものではないから。

② アメリカ人は、自分たちには奇異で滑稽に見える風景ばかりを写真にしており、そうした態度からは日本人や日本文化を尊重しようとする誠実さが感じられないから。

③ アメリカと異なり長い歴史を経て培われた日本人の優れた精神性を示す写真ではあるが、現代の日本人には姿や形だけのものになっていると感じているから。

④ アメリカ人は、自分たちの文化や精神性に通じる光景を見出そうとしているが、日本人とアメリカ人とは本質的には理解しえない間柄にあると考えているから。

⑤ アメリカ人の写真は、アメリカ社会が欲している日本人の姿や文化の在り様を表すための物であり、日本人もその意図をくんだうえで望まれる姿を演じているから。

問 4

「B リサは、このようなことが日本で起こりうることが不思議で仕方がない」とあるが、リサが不思議がるのはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。 解答番号は **16**。

- ① アメリカでは、経済成長を進めるために厳しい規律やしつけを強いる日本の教育は否定されてきたが、すでに日本ではそうした教育から脱却し、経済成長も達成したと見なしているから。
- ② 日本の小学校では、児童が騒がしくそれを教師も放任しているような事実から、日本の経済成長を支えているのは学校教育以外にその要因を求めなければならないと考えているから。
- ③ 日本の経済成長は、勤勉で規律正しい生徒を育てる学校教育の成果であると考えていたが、実際の日本の公立小学校における児童や先生の自由な姿を見て戸惑いを感じているから。
- ④ 現代のアメリカでは、厳しい規律やしつけを重んじる教育を進めているが、一向に経済の成長や学力の向上が進まないため、なぜ日本では成果が得られているのか理解できなかったから。
- ⑤ 日本の児童は、騒がしくしても教師は放任しているように見えるが、実際のところは、アメリカにはない日本独自の指導方法により、規律を重んじる態度や節度ある行動が身についていると思ったから。

問 5

「C 日本の教師がアメリカにくらべ、寛容になれる理由でもあるのだろうか」とあるが、その「理由」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。 解答番号は **17**。

- ① 日本の社会では、協調性を欠いたり特異な態度をとることが許されないため、学校においてはそうした規律をあえて強制しなくとも子供は安全に生活することができるから。
- ② 日本では一般に、子供の本性は善であり悪は外にあるとする考えが強かったため、自然な成長を促すうえでは寛容的な態度で接することが望ましいと考えられてきたから。
- ③ 日本人は仕事中毒と評される社会を生きていかなければならないため、子供のうちだけは厳しい規律と禁欲的なしつけとは無

縁の生活を送らせてやりたいと考えているから。

④ 日本でも子供のうちは厳しくしつけるべきだとする考え方が根強くあるが、アメリカ社会のような宗教による精神的基盤を持たないため、徹底することができなかったから。

⑤ 日本では外の環境が子供に悪をもたらすと考えられていたため、学校の教師は常に善なる存在であることが求められ、厳しくしつけることが戒められているから。

問6

「D 変貌しながらも、痕跡を残している」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は **18**。

① アメリカでは日本人の厳しい自己統制を強いる教育に違和感を覚えるあまり、温和なしつけをしようとするが、伝統的に培われてきた性悪説に基づくしつけから脱却することはできずにいるということ。

② 日本人の性善説とアメリカ人の性悪説のそれぞれに基づく子供観は、いずれが子供をしつけるうえで有効であるかを明らかにできていないため、社会動向の影響を受けてたえず変化しているということ。

③ アメリカ人の性悪説に基づく子供観は、社会変動に伴い大きく変容し、日本の甘やかしているように見えるが実は厳しい育児を模範としてきたが、宗教的な理由からいまだに成果が得られずにいるということ。

④ 日本のおおらかな教育は、かつてのアメリカでも大切にされてきたが、アメリカ社会に宗教的な考えが浸透する過程で厳しくしつけることを受け入れざるを得なかったという歴史的背景があるということ。

⑤ アメリカでもしつけの寛容化は進んでいるが、かつての性悪説に基づくしつけを一掃することはできていないため、日本人の性善説に基づく教育との間には容易に埋められない溝が存在しているということ。

(保健医療学部 の 解答はここまで)

三

次の文章は『無名草子』の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

「この世に、^Aいかでかかることありけむと、めでたくおぼゆることは、文こそ^xは^はべ^れな。『枕草子』に返す返す申してはべるめれば、こと新しく申すに及ばねど、なほいとめでたきものなり。遙^{はる}かなる世界にかき離れて、幾年あひ見ぬ人なれど、文といふものだに見つれば、ただ今さし向かひたる心地して、^pなかなか、うち向かひては思ふほども続けやらぬ心の色もあらはし、言はまほしきことをもこまごまと書き尽くしたるを見る心地は、めづらしく、うれしく、^Bあひ向かひたるに劣りてやはある。つれづれなる折、昔の人の文見出でたるは、ただその折の心地して、いみじくうれしくこそおぼゆれ。まして亡き人などの書きたるものなど見るは、いみじくあはれに、年月の多く積もりたるも、ただ今筆うち濡^ぬらして書きたるやうなるこそ、返す返すめでたけれ。何事も、たださし向かひたるほどの情けは、仮にてこそはべるに、これは、ただ昔ながら、つゆ変はることなきも、いとめでたきことなり。いみじかりける^(注1)延喜、天暦の御時の古事も、^(注2)唐土^{もろこし}、天竺^{てんぢく}の知らぬ世のことも、この文字といふものなからましかば、今の世の我らが片端も、いかでか書き伝へましなど思ふにも、なほ、^Cかばかりめでたきことはよもはべらじ」と言ふ人あり。

また、「何の筋と定めて、いみじと言ふべきにもあらず、^aあたにはかなきことに言ひ慣らはしてあれど、夢こそ、あはれにいみじくおぼゆれ。遙かに跡絶えにし仲なれど、夢には関守も強からで、もと来し道もたち帰ること多かり。別れにし昔の人も、ありしなごらの面影を定かに見ることは、^Dただこの道ばかりこそはべれ。^(注3)上東門院の『^(注4)今はなき寝の夢ならで』と詠ませたまへるも、いとこそあはれにはべれ」など言ふ人あり。

また、「^Eあまた、世にとりていみじきことなど申すべきにはあらねど、涙こそ、いとあはれなるものにてはべれ。情けなき武士^{もののふ}の和らぐこともはべり。色ならぬ心のうちあらはすものは、涙にはべり。いみじく^rまめ^めたち、あはれなるよしをすれど、少しも思はぬことには仮にもこぼれぬことにはべるに、はかなきことなれどうち涙ぐみなどするは、心に染みて思ふらむほど推し量られて、あはれに心深くこそ思ひ知られはべれ。^(注5)亭子の帝の御使ひにて、^(注6)公忠の弁の『^(注7)泣くを見るこそあはれなりけれ』と詠みけむ、ことわりにぞはべるや」と言ふ人あり。

(注) 1 延喜、天暦の御時——醍醐、村上天皇の御代。いずれも理想的な時代。

2 唐土、天竺——中国とインド。

- 3 上東門院——藤原彰子。道長の娘で、一条天皇の中宮。
- 4 今はなき寝の夢ならで——一条天皇の崩御を悲しんだ歌の一節。「逢ふことも今はなき寝の夢ならでいつかは君をまたは見るべき」。
- 5 亭子の帝——ここでは、宇多天皇のこと。
- 6 公忠の弁——右大弁源公忠。
- 7 泣くを見るこそあはれなりけれ——源公忠の歌の一節。「思ふらむ心のうちは知らねども泣くを見るこそあはれなりけれ」。

問 1

波線部 **p** ～ **r** の解釈として最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。 解答番号は **19** ～ **21**。

「**p** なかなか」

19

- ① ようやく
- ② しばらくして
- ③ おだやかに
- ④ ゆったりと
- ⑤ かえって

「**q** あだに」

20

- ① ひたすら
- ② 意外に
- ③ むやみに
- ④ むだに
- ⑤ 誠実に

「**r** まめたち」

21

- ① 気どった様子をして
- ② まじめにふるまい
- ③ 顔立ちが美しく
- ④ しっかりと注目して
- ⑤ 厳しい様相を呈して

問 2

「**x** はべれ」を文法的に説明したものとして適当なものを、次の中から一つ選びなさい。 解答番号は **22**。

- ① 動詞「あり」の尊敬語
- ② 補助動詞「をり」の謙譲語
- ③ 動詞「あり」の丁寧語
- ④ 動詞「をり」の尊敬語
- ⑤ 補助動詞「あり」の丁寧語

問 3 「A いかでかかることありけむ」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **23**。

- ① どのようにしたところでこんなことがあるはずがない
- ② どうすればこのようなことができるのだろう
- ③ なんとかしてこのようなことができないものだろうか
- ④ どのようにしてもこうしたことはできなかったのだろうか
- ⑤ どうしてこのようなすばらしいものがあつたのだろうか

問 4 「B あひ向かひたるに劣りてやはある」について、この部分の内容を説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **24**。

- ① 顔と顔を突き合わせて話をする方が、こまごまとしたことを、身振り手振りを交えて詳しく伝えることができる。
- ② 向かい合って話をする、しないにかかわらず、いずれにしても心の内をうまく伝えることは難しいといえる。
- ③ 実際に面と向かって話をするにより、伝えたかったことがはっきりとしてきて、より正しく伝えることができる。
- ④ 対面による話や文による伝達については、それぞれ一長一短があり、いずれが優れているかを判断することは難しい。
- ⑤ 対面と同じか、あるいはそれ以上に心のうちを言い尽くしたり、こまごまとしたことを伝えたりすることができる。

問 5 「C かばかりめでたきこと」について、本文中で挙げられている事例として**適当でないもの**を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **25**。

- ① はるか昔の時代のすばらしい出来事を知ることができる。
- ② 容易に行くことのできない世界のことを知ることができる。
- ③ すぐに書き留めることで忘れないようにすることができる。
- ④ 目の前にいない人をあれこれと思いやることができる。
- ⑤ 今あることを書き留めて後世に伝えることができる。

問 6

「D ただこの道ばかりこそはべれ」について、「この道」の指す内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **26**。

- ① 夢 ② 文字 ③ 古事 ④ 文 ⑤ 筆

問 7

「E あまた、世にとりていみじきことなど申すべきにはあらねど、涙こそ、いとあはれなるものにてはべれ」の内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **27**。

- ① 多くの人がこの世をはかなんでおり、誰もが涙を流している様子を見るとこの世のはかなさが深く感られる。
- ② この世に素晴らしいものは多くあるわけではないが、なかでも涙はたいへんしみみと趣深いものである。
- ③ たくさんの美しいものがこの世にはあるが、人は涙を見せることで深い情趣を表そうとするものである。
- ④ 世をはかなんで涙する人は多くはないが、しみじみとした趣を感じる時には多くの人が涙するものである。
- ⑤ この世の多くの人にとって涙は大切なものではあるが、それはすぐに消えてしまうはかないものである。

問 8

『無名草子』の文学ジャンル（作品区分）として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **28**。

- ① 物語
- ② 随筆
- ③ 日記
- ④ 評論
- ⑤ 説話

（全学部の共通問題 終わり）

※ 教育学部**国語教育専攻**の受験者は、このあとの**四**（記述式）にも解答しなさい。

国語（国語教育専攻の追加問題）

* 教育学部国語教育専攻の受験者は、☐一・☐二・☐三に解答し、さらに次の☐四にも解答しなさい。

* ☐四の解答には、**記述式解答用紙**を使いなさい。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

短歌における作者名と作品の関係は、現在でも解決できていない問題であろう。

(注1) 小高賢の『この一身は努めたり (注2) 上田三四二の生と文学』の中でも、この問題はたびたび論じられている。上田三四二は、癌がんという大病に耐えつつ文学に生きた歌人である。そのイメージがあるため、**A** 歌の読みにどうしてもバイアスがかかってしまう、というのである。

いつまで生きんいつまでも生きてありたきを木犀もくせいの香のうつろひにける

上田三四二『照径』

たとえば小高はこの歌を引用して、こう述べる。

上田三四二という署名がなかった時、はたして切実感が伝わってくるのだろうか。(中略)

無署名で、歌会の批評にさらすことを考えてみよう。上三句に具体性がなく、その内実が分からない、あるいは下句の「木犀の香」が上句を支えきれていない、というような意見が、おそらく続出するだろう。(中略)ところが、上田三四二という歌人を知っている、あるいはその生涯が背景として、情報として読み手にインプットされる。すると、作品はまったく異なった顔をもって立ち上がってくる。むしろ具体性がないことが、かえって読み手の想像力を刺激する。短歌という文芸のおもしろさであり、**p** パラドックスである。

たしかに、この歌を無署名で読んだら、上句がやや大げさに感じられるかもしれない。しかし、上田三四二の歌として読むと、どうか。木犀の花が散り、冬に入ろうとしていく季節のうつろいと、自らの生命の終わりが近づいてくる **a** アセリや不安や悲哀が重なり、しみじみとよく理解できるような気がする。そのように読んだとき、この歌が大げさだとは、まったく感じない。

小高が「パラドックス」と言うとおり、署名によって読みが変化することは、短歌の長所でもあり短所でもあるのだろう。短歌の読みの不確実さや不思議さを、改めて認識させられるのである。

(注3) 塚本邦雄は、かつて次のように書いた。

戸籍上の私は作品の何処にも棲息しない。否生存を許さない。(中略) 人間、この崇高にして猥雑極まる存在がそのような(注4)クレドで律し切れるものではない。B 律し切れぬ不如意に時として私は唇を嚙んだ。私は「私」を昇華しお世話か。駆逐し追放し抹殺することに成功したか。

(『花隠論』『星夜の辞 島田修二論』)

塚本は、現実の自分と作中主体を完全に切り離そうとする。けれども、いくら切り離そうとしても、作者の生活の影は作品からにじみだしてくる。そのことに、塚本は絶望する——いや、絶望しつつも、言葉と生身の人間が結びついていることに、彼はひそかなよこびを感じていたのではないだろうか。塚本ほど〈私〉を否定しようとした歌人はいないが、〈私〉を否定すればするほど、存在がたしかになっていく自己の生を、逆説的に愛していたようにおもうのである。

短歌は作者名とともに読むべきなのか。それとも作者名を消して読むべきなのか。

塚本邦雄の試行が示しているとおり、作品と作者を切り離して読むことは、最終的には無理なのだろう。詩歌とは、声にもっとも近い表現である。声と身体を切り離すことはできない。

たとえば、上田三四二の歌であれば、「いつまで生きんいつまでも生きてありたきを」という字余りのリズムから、なまなましい作者の〈声〉のようなものが響いてくる。小高賢も「くりかえしに近い祈りのような上三句の二十音が、切実な気分をかもし出している」と指摘しているが、そのとおりであろう。文字で書かれた〈声〉を感じ取ることが、短歌を読む上で、最も大切なことだが、その〈声〉がどうしても作者の身体や人生と結びついてしまうのである。

しかし、塚本邦雄の試行が無駄だったというのではない。それどころか、非常に大きな遺産なのだと思う。

塚本邦雄の論の最も重要な点は、「もし、無署名で読んだとしたら／作者の人生と切り離して作品だけを読んだら」というC〈仮定法の読み〉を前景化したことなのである。

つまり、こういうことだ。

私たちは、作品を一つの見方からしか読んでいないことが多い。ところが、「もし、無署名で読んだとしたら」という問いが与えられた場合、現在の自分から離れて、別の人間——作者を知らない人間——の視線を想定して作品を読むことになる。もちろん、まった

く別な人間に成りきることとはできないから、その視線はバーチャル（仮想的）なものだ。ただ、自分の主観を疑うことで、他の角度からの読みが意識化される。上田三四二の歌であれば、ただ作者の病に同情しているのではなく、「無署名で読んだら」という冷静な読みが加わることによって、歌の奥行きはさらに深くなるのである。自分の読みだけを絶対化せず、別の視点からの読みを想像してみる、という余裕が、詩歌の読みでは大切なのだ。無署名の歌を、他人とともに読む歌会というシステムが重要なのは、そのためなのだろう。

蛾^がになつて昼間の壁に眠りたい 長い刃物のような一日 笹井宏之『ひとさらい』

この作者は一年ほど前（二〇〇九年一月二十四日）、二十代で亡くなった。その急逝は若い世代の歌人に **b** ショウゲキを与え、追悼集会が行われたり、追悼特集が組まれたりした。

笹井には意味を理解しにくい歌も多く、私は彼の歌の良い読者ではなかったが、この一首については、作者の生前、次のように書いたことがあった。

「長い刃物のような一日」という比喻もおもしろい。上句の「昼間の壁」とも響き合っているとところがあって、壁に射^きしている日光が、長い刃物の感じを生み出したのかもしれない。『対峙^{たいじ}と対話』

私は、日光の輝きを刃物の光る様子に喩^{たと}えた、ユニークな歌として味わっていたのである。この読みが間違っているとは思わない。しかし、作者の人生が、死後になってわかってくると、別の読み方も存在することに気づかされた。

作者は、つねに激痛を感じつづける病気に罹^{かか}っていたため、一日中寝たきりで生活しなければならなかったらしい。それならば、「長い刃物のような」は、むしろ痛みの比喻ではなかったのだろうか。長く続く痛みのために眠れない昼、「蛾になつて眠りたい」とふとつぶやいた言葉を一首にしたのではないか。一見軽い口調の背後に、どうにもならない苦痛があったのかもしれない。

作者の情報に寄り添って解釈することが、ほんとうに正しいかどうかはわからない。だが、そう読むことによって、私には遠く感じられていた歌人の作品が、ふいに生々しく見えてきたのも事実である。自分の内部に、別の読み手を作り出すことで、読めるようになる作品もあるようだ。

「好きだった」と聞きし小説を夜半に読むひとつまなざしをわが内に置き

横山未来子『水をひらく手』

D この歌を、私は最近とてもおもしろいと思っている。

恋人が「好きだった」と言った小説を読んでいるとき、恋人のまなざしを意識しながら読んでいることに気づいた、という歌だ。「あの人はきつとこの場面に感動したのだろう」とか想像しながら小説を読んでいるわけである。そのような体験は、誰にでもあるのではないか。横山の歌は「読む」という行為の本質を、じつに鋭く捉えている。

読むということは、一見、個人的な行為のようだが、じつは自分ひとりで行うものではない。自分の内部に、仮想的な他者を棲まわせながら、言葉を認識していく行為なのである。読者である〈私〉を固定させず、変化させたり分裂させたりすることによって、初めて他者の言葉に触れることができるのだ、と言ってもいい。自分の内部に、自分以外の「まなざし」をもつことは、歌の読みをたしかに豊かにしてくれるのだ。

(吉川宏志『短歌時評集二〇〇九―二〇一四年 読みと他者』による)

(注) 1 小高賢——歌人(一九四四～二〇一四年)。

2 上田三四二——歌人(一九二三～一九八九年)。

3 塚本邦雄——歌人(一九二〇～二〇〇五年)。

4 クレド——信条。

問1 「^aアセリ」、「^bショウゲキ」のカタカナに相当する漢字を楷書で答えなさい。なお、送り仮名が必要なときは、それも書く

こと。解答番号は、**a**は記述式**1**、**b**は**2**。

問2 波線部 p、q の本文中における意味として最もふさわしいものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、数字で答えなさい。

解答番号は、記述式 3 ～ 4。

「p
パラドックス」

3

- ① 予想とは異なる結論が得られること
- ② 特定の結論に導こうとすること
- ③ 矛盾を解消できずにいること
- ④ 新たな結論を見出そうとすること
- ⑤ 皮肉な結末に至ること

「q
昇華」

4

- ① うまく収める
- ② 全てを捨て去る
- ③ より高い次元に上る
- ④ 美しく見せる
- ⑤ 客観視をする

問3

短歌「蛾がになつて昼間の壁に眠りたい 長い刃物のような一日」に用いられている修辞技法として**適当でないもの**を、次の中から一つ選び、数字で答えなさい。解答番号は、記述式 5。

- ① 見立て
- ② 句切れ
- ③ 直喩
- ④ 折句
- ⑤ 体言止め

問4

「A 歌の読みにどうしてもバイアスがかかってしまう」とはどういうことか。次の【 】内に当てはまるように三〇、四〇字で説明しなさい。解答番号は、記述式 6。

〇字で説明しなさい。解答番号は、記述式 6。

上田三四二の歌について、【 】

【 】ということ。

問5

「**B** 律し切れぬ不如意」とあるが、これはどのようなことを言ったものだと考えられるか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、数字で答えなさい。解答番号は、**記述式 7**。

- ① 作品には作者の理想とする世界を描かねばならないと考えているが、結果として現実の世界に依拠したものになっていること。
- ② 作品には作者がどのような人間かを示すべきではないが、正しく作品を理解してもらうためには示さざるを得ないということ。
- ③ 作品からは作者の猥雑な部分を切り離さねばならないが、日常生活を描く場合にはすべてを隠すことはできないということ。
- ④ 作品には作者の生活の影を落としてはならないが、作家としての生活を成り立たせようとする思いがにじみ出てしまうこと。
- ⑤ 作品からは作者の存在を消し去らねばならないと考えているが、意に反して作者の存在が感じられるものになってしまうこと。

問6

「**C** 〈仮定法の読み〉」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、数字で答えなさい。解答番号は、**記述式 8**。

- ① 自分自身を作者と同じ立場に立たせて、作者の人生や生活を背景とするのではなく、自分自身の感性や生活体験に基づく読みを試みること。
- ② 作者が実際とは異なる人生や生活を送っていたと想定して、作者が描ききれなかった世界を付加することで、新たな読みを得ようとすること。
- ③ 作者自身がこだわりを持っている読みの視点をあえて排除して、鑑賞者が先入観にとらわれることなく、純粹に作品と向き合うようにすること。
- ④ 自分自身を作者の人生や生活を知らない人間と想定して、これまでの鑑賞を相対化するとともに、別の角度からの新たな読みを試みること。
- ⑤ 無署名の作品だけを鑑賞の対象として、作品に描かれている世界を仮想空間にすることで、常に新しい読みが生みだされるようにすること。

問 7

「D この歌を、私は最近とてもおもしろいと思っている」とあるが、「私」（筆者）は「横山」（作者）のどのような姿を想像して評価をしているか。次の【 】内に当てはまるように、**三〇〃四〇字**で説明しなさい。解答番号は、**記述式 9**。

横山の歌からは、【

】姿が読み取れる。

問 8

歌論書「歌よみに与ふる書」を著し、江戸時代までの形式にとらわれた和歌を非難して、短歌の革新に努めた歌人名として適当なものを、次の中から一つ選び、数字で答えなさい。解答番号は、**記述式 10**。

① 石川啄木

② 与謝野鉄幹

③ 斎藤茂吉

④ 若山牧水

⑤ 正岡子規

（**国語教育専攻**の追加問題 終わり）